

令和7年度 第2回福祉サービス部会会議録

日 時 令和7年9月30日(火)

場 所 美馬市役所南館 3階306会議室

参加機関 美馬市長寿・障がい福祉課、障害者支援センターかしかおか、
相談支援センターイノセント、地域活動支援センターまいか
障害者支援センター小星園、
(施設・グループホーム)
ゆとりの家、グループホームかしかおか、山川共同生活援助事業所
共同生活援助フローラ、障害者支援施設かしかおか
障害者支援施設キナ・うだつ、障害者支援施設小星園

会議録作成者 障害者支援センター小星園 三笠ひと美

1、自己紹介

2、○空き情報の共有について意見交換をする。

(事業所から)

- ・電話での問い合わせある。申請していても入所の意思のない方がおり、希望者からの電話で正確な人数が言えない。
- ・市町村で何人の待機待ちが分かるのではないか。
- ・待機申請は、1人に対して1施設が原則となる。
- ・入所希望上位の方でも断る。待機待ちの方上から順番に聞いていく。
- ・県・市などホームページにはない。一目でわかる情報はない。
- ・ワムネットに施設の情報は出ているが、空きについてはない。
- ・吉野川市は基本的な情報の様式を作成している。
- ・グループホームは、待機はない。
- ・グループホームへの入居は、病院が関係機関で、入院中の受け入れをしている。板野郡は、基幹からメールがきて報告している。
- ・グループホームの入居の相談は電話で家族が直接聞いてくる。入居状況を説明し見学をされる。

(相談支援専門員から)

- ・空き情報は、1か所ずつ聞いていくしかない。
- ・板野郡は、報告が手間にならないのか。
- ・空き情報の共有の仕組みがあれば助かる。
- ・今、システムがないので、同法人の中で内内の話になる。

まとめ：一か所で管理できるシステムがあればいい。しかし、事業所がどこまでオープンにしてくれるか、そのメリットはあるかなどの意見と、開かれた情報の共有ができる。利用者側も確認することができるので効率がいいとの意見もあった。今後の課題として、他の地域はどのようにしているか探求していく。

○地域交流の場やその機会を設けているか。

- ・地域の祭りや清掃活動、防災訓練で地域の消防団に協力してもらう。
- ・B型事業所があるので商工会に関係をもっている。
- ・自治会に管理者が参加して、GHやB型事業所のことを伝えている。
- ・いきいきサロン、スポーツクラブ、マツゴルフなど参加している。
- ・神社の清掃に参加している。芋ほり体験。
- ・地元のスーパーに出かけている。
- ・地域連携会議で情報公開。

○災害時の備蓄はどのようにしているか。

- ・備蓄品として、食料や水などの食物と、簡易トイレ、女性生理用品、自家発電装置などの物資を蓄えている。(多数の意見)
- ・太陽光発電を設置している・
- ・BCPの訓練を関連施設全体で実施した。
- ・同じ法人4施設が松茂と上板と協定をしている。
- ・避難訓練を年4回実施している。
- ・市役所は危機管理課が対応している。専門的に部署に相談してもいいと思う。

3、グループワーク

三班かれて、それぞれのグループで困っている事や情報共有など行い、話し合ったことを発表してもらった。

4、次回の開催

日時 令和7年12月19日(金)の予定

場所 未定